

## 新ましこ未来計画パブリックコメント

意見・提案内については、原則原文のまま(ただし、誤字は修正)。

なお、文体を統一するため、語尾など一部調整した箇所があります。

No.	意見・提案内容と理由	回答
1	<p>①里山の筒拔(竹・木)及び下草刈りを行い、竹林の整理、里山、山斜面清掃。春の陶器市を利用し、タケノコ狩り、キノコ狩りをさせる。</p> <p>②筒抜けによる廃材を腐葉土づくりに利用。官で立ち上げ、民に移行させる。</p>	<p>①につきましては、「里山整備への人材あっせんや費用補助を行い、里山景観の保持に努めます」、「農地に隣接した里山や通学路などの身近な場所の環境整備を推進します」に包含すると考えます。その他の部分につきましては、今後の参考にさせていただきます。</p>
2	<p>傾聴ボランティア養成講習会開催 私は、近隣地社協で毎年実施している講習会に参加して、平成19年からボランティア活動をしている。グループで月1〜2回定期的に施設訪問をしたり、ひとり暮らしの老人宅へは2人1組でうかがっている。</p> <p>1時間の予定時刻が過ぎてなかなか帰れないほどの話を聞くこともある。うなづきながら相手の気持ちに寄り添うだけだが、イキイキとしていく表情を見ていると、聞き手も心がなごむ。本町でもスキルを磨き、数多くの仲間と研修や交流を重ねて、聞き上手を目指すような傾聴ボランティア養成講習会の開催してはどうか。</p>	<p>検討の結果、「元気な高齢者が独り暮らしの高齢者の日常生活を支援する仕組みをつくります」に包含すると考えます。傾聴ボランティア養成講習会の開催につきましては、今後の参考にさせていただきます。</p>
3	<p>高齢者同士で支えあう時間預託制度 元気な高齢者(提供者)が弱い高齢者(利用者)を支える活動で、提供した時間を1時間1点として預託し、自分(または自分が指名した者)が利用するときは預託の点数を引き出して使う。預託がない場合は、1時間500円(程度)を関係部署に寄付して、その資金で運営してはいかがか。利用者の食事作りや買い物、外出介助などのボランティアは、提供者の健康づくりや生きがいにもつながる。元気な高齢者が望んでいる地域社会への参加意識をぜひ活用してみてはどうか。</p> <p>追記 NPO法人ニッポン・アクティブ・クラブ(通称:NALC(ナルク))が活動している。ナルク栃木の益子支部開設も可能です。年会費:夫婦単位で3,000円</p>	<p>「高齢者同士の支え合い」につきましては、具体的行動として次のように採用しました。「元気な高齢者が独り暮らしの高齢者の日常生活を支援する仕組みをつくります」 「時間預託制度」につきましては、今後の参考にさせていただきます。</p>
4	<p>①運動・食事を通じた健康づくりの推進について 生活習慣病の予防指導は保健センターで主に実施されていると思う。しかし、中央まで出かけるのが困難な人もいるので、コミュニティ単位での健康教室の開催をお願いしたい。</p> <p>②住民相互の交流促進について 道の駅の施設で新しい就労の機会をつくり、高齢者でも仕事を持ち社会参加できれば、生きがい効果が向上する。内向きにならずに老いも若きも道の駅を活用し、仲間づくりをする。そうすることで様々な会話を通して生活向上のためのアイデアが生まれる。そして人と接することで元気になれる。</p> <p>→「病院へ行く前に道の駅でおしゃべりして元気になろう」</p> <p>③コミュニティバスの運行やデマンドタクシーの利便性の向上について 益子町民の真岡市内への通院の足確保と真岡市から益子への来訪者の便宜を図り、益子の道の駅をコミュニティバスやデマンドタクシーのステーションとし、益子町と真岡市で総合乗り継ぎができたらいと思う。</p> <p>④食事を通じた健康づくりについて 病気治療中の方でも安心して食べられるメニュー(カロリー表示)を町内の飲食店で提供できないか(例:糖尿病、腎臓病、アレルギー対応など)。</p>	<p>①健康教室につきましては、地域のニーズに応じて、個別に対応させていただきます。</p> <p>②検討の結果、「町民主体の高齢者向けふれあいサロンの増設を支援します」、「高齢者を指導者に迎え、家庭菜園、日曜大工などの暮らしに役立つ講座を開きます」に包含すると考えます。住民相互の交流の場としての道の駅施設の活用することにつきましては、内部に休憩施設や地域交流施設なども整備するものとして現在建設中であるため、有効活用できるものと考えます。</p> <p>③につきましては、真岡鐵道、タクシーなどその他の公共交通機関も考慮し、今後の参考にさせていただきます。</p> <p>④につきましては、今後の参考にさせていただきます。</p>

## 新ましこ未来計画パブリックコメント

意見・提案内については、原則原文のまま(ただし、誤字は修正)。

なお、文体を統一するため、語尾など一部調整した箇所があります。

No.	意見・提案内容と理由	回答
5	<p>①農業生産の整備について 農業の6次産業化を推進するにあたり、個人単位では人手も資金の調達にも限界がある。そこで、農産物の生産体制と情報発信体制を整えるためには、農業法人の立ち上げが必要だと思う。農家以外の方でも出資して加工や販売などの仕事に携わりたいという考え方の人もいる。</p> <p>②観光客の誘致について 益子のメインストリートのお店の駐車場の案内がわかりにくい。町内の在住者でさえ目的の店に行きたくとも駐車場がわからないので通り過ぎてしまうという意見もある。</p> <p>③益子のマルシェについて 卵の配置の仕方です上下が逆になっていることがある。ラベルの表示は買う人が見やすい表示にしてほしい。客に販売意欲を抱かせる魅力のある商品構成を考えてほしいという意見もある。</p>	<p>①につきましては、「集落営農組織の育成・法人化の促進及び農業に参入する企業を誘致します」に包含すると思います。</p> <p>②につきましては、観光戦略会議の中での課題として参考にさせていただきます。</p> <p>③につきましては、マルシェに伝え改善いたします。</p>
6	<p>新ましこブランド(陶器)に次ぐ製品の創出 着眼点としては土地の有効活用、生産、雇用、販売、税収増が機能する案</p> <p>○観光の町へ益子町が飛躍・・・酪農王国ましこ(牛乳、牛肉)、ましこ椎茸(農業、商工業が発展。生み出せ税収、労働力)</p> <p>①土地有効活用・・・国有地、県有地、個人遊休地、ゴルフ場使用地を転用 ②販売強化・・・学校、スーパー、幼稚園、コンビニ、道の駅、その他の施設→市町村、県内、国内、海外展開へ拡大する ③生産性向上・・・乳製品(牛乳・チーズ等)、ましこ牛肉、椎茸、ほか栽培。各種容器は益子焼使用→工場誘致、新たな経営形態を設立し、雇用の創出を図る。</p> <p>①～③の相乗効果により、観光客を増やして活気あふれる町に飛躍。バス路線の拡張(石橋駅等に接続)、トロッコ路線新設で益子見学。労働力の確保は、シルバー人材センター等の活用。 環境に適合した優しい場所の土地を選定する(汚臭対策、放射線量、土壌を調査して安全確保、その他) 広大な美観のある牧場、牧草畑をつくり、観光客を呼べる場所(ゴルフ場用地の転用で、子供たちの林間学校等に使用可能な施設で他県から多くの人を迎えられる場所) 専門分野(研究分野)と連携して最高品質の製品開発、他地区に研修生を派遣し技術の習得 既存の酪農従事者の保護及び牧場経営に参画して指導いただく。 hop step jumpで生産規模の総合判断をして安定成長を図る 税収の増を図る</p>	<p>「農業の6次産業化」「ブランド商品」の中で、新商品等の開発を行ってまいります。</p>
7	<p>歴史民俗資料館の設置 益子町の歴史と共に祖先が残した貴重な文化遺産の中で生活をして現在に至っているが、急激な社会情勢の変化に伴って、それらの大半は失われつつある。</p> <p>以前本町において町内から民具農具等が集められ、旧法務局建物におかれている。各家庭においても相当のものがまだ残されているのではないかと思われる。 明治以降の農家や町の生活などの暮らしの紹介や「職人の道具」「暮らしの道具」「玩具」「日用雑貨」などを展示して子どもたちをはじめ、町民の学習の場として活用できるような施設として、旧七井分館跡地に歴史民俗資料館の設置を希望する。</p>	<p>ご意見・ご提案につきましては、今後の参考にさせていただきます。</p>

## 新ましこ未来計画パブリックコメント

意見・提案内については、原則原文のまま(ただし、誤字は修正)。

なお、文体を統一するため、語尾など一部調整した箇所があります。

No.	意見・提案内容と理由	回答
8	<p>歴史資料館の設置 地域(郷土)の重要な文化遺産である歴史的遺物、文書、衣食住にかかわる生活上の道具、生産にかかわる農具、用具を収蔵する歴史資料館の設置を望む。 収蔵物の活用が、担当者やボランティアの協力等で図られれば、生涯学習、児童・生徒の学習に資することができる。</p>	<p>ご意見・ご提案につきましては、今後の参考にさせていただきます。</p>
9	<p>山車と神輿の展示・保管場所の設置 七井地区の八雲神社祭典は150有余年も続いている歴史と伝統ある夏祭りとして長く庶民に親しまれてきた。しかし、現況は、少子高齢化の時代となり生活環境が著しく変貌し若者たちの考え方にも変化があり、協調・協力性がなくなってきている。このままでは自治会の存続が難しい状態にあり危惧している。そこで、130年以上もの歴史がある山車が長く眠っていたものを地元有志が立ち上がって復元させた。やっとの思いで復元した庶民の宝物が現在は仮の保管場所に間借りしている状態である。 また、永年(210余年前)七井の夏祭りのシンボルとして親しまれていた御神輿が、外観の塗装が剥げてしまい、装飾品もほとんどがなくなった状態であったため、修理を検討したが、新しい御神輿を買うよりも費用が掛かってしまうため、新調することに決定した。今までの御神輿の台座の中を確認してみると、木札に250年以上も昔に製作されたことが判明した。歴史ある御神輿のため、展示館に展示しようと機運が盛り上がっている。 新調した御神輿も併せて展示する保管場所を建てていただき、このタイミングで七井地区の活性化と新しいまちづくりを図る基になるようにしたいと考えている。そのような理由で、展示保管庫の設置を検討願いたい。</p>	<p>ご意見・ご提案につきましては、今後の参考にさせていただきます。</p>
10	<p>図書館の設置と公共施設の全面禁煙 益子には新聞も置かないような図書室があるが、子供たちのためにも整備された図書館を早急に作るべきだと考える。益子で充実した図書館がないために、わざわざ置市貝や芳賀に本を借りに行くという現状がある。 また、公共施設は全面禁煙としたほうがよい。子供や妊婦、たばこの嫌いな人までたくさんの人が訪れる。以前、役場の窓口でたばこ臭い男性が対応してくれたことがあるが、とても不快だった。 たばこは悪性物質がたくさん含まれ、1本吸えば8時間は抜けない。悪性物質を公共の職員が窓口でふりまかないでほしい。 企業では喫煙者は採用しないという動きも出始め、勤務時間中の喫煙も禁止をしているところがある。実際に、喫煙者とたばこを吸わない人で仕事の効率を比べると、禁煙車は仕事の効率が悪いというデータも出ている。 たばこは単に依存症だけでなく、病気になる確率も高い。また、周りにも害を振りまいている。医療費削減のためにも、もっとたばこの禁煙を推進したほうがよい。 喫煙者の権利も主張されるかもしれないが、他人の健康を害してまでたばこを吸う権利はないはず。 ましこ未来計画の中に公共施設の全面禁煙とあわせて図書館の建設を早急に願いたい。</p>	<p>ご意見・ご提案につきましては、今後の参考にさせていただきます。</p>
11	<p>遊園地の設置 町の中心部に遊園地など人の集まる場所ができれば町も活気づくのではないかと思います。</p>	<p>町に活気をという観点は、「役場周辺地区を町民が集い、豊かな時間を過ごせる場所にします」に包含されると考えます。</p>

## 新ましこ未来計画パブリックコメント

意見・提案内については、原則原文のまま(ただし、誤字は修正)。

なお、文体を統一するため、語尾など一部調整した箇所があります。

No.	意見・提案内容と理由	回答
12	<p>祭りを通した住みやすい地域 過日、全国知事会議で「地方創生宣言」を決定した旨報道がされた。 地方創生宣言の重点分野の一つに「若者から高齢者まで地方移住希望がかなう環境をつくる」があげられているが、少子・高齢化により過疎化する地域に住む者としては大変ありがたい施策である。 七井地域も都市計画などによって都会的便利さは整い、アパートなども増加している。しかし、今後、アパートに移住してきた方々は定住するのか。定住する人が増加するためには、自然環境やそこに住む人たちの人間関係を含めて住みよい場所かどうかが問題であると思う。 都市計画によって町の様子が一変した。また、自営業、専業農家などはほとんどなくなり、住民の多くは会社勤めとなり昼間は留守という状況になった。それにつれ、年々住民間の交流する機会が少なくなり、郷土の一体感や絆は希薄になっている。 郷土の伝統と文化をもう一度見直し、新しく七井地域に加入していただいた方々を含め隣人同士のきずなが強く結ばれ、真に豊かな地域にする必要があると考える。地区の集まりでは従来と大きく変化していることは何かということがしばしば話題になっていた。最も変化したこととして祭りの衰退があげられた。 そこで、七井地区中心の七井元分館跡地を地域住民のふれあいの場、祭り広場として恒久に開放して、伝統のある山車、神輿などのテーマパーク広場、また、災害時の一時避難場所等に活用されることを切望する。</p>	<p>回答</p> <p>定住につきましては、「移住サポートセンターの設置」「町民活動支援センターの設置」などにより、移住者への情報提供や人と人とのつながりによる地域づくりなどを通して、本町に住み続ける取組の強化を目標とした具体的行動を計画いたしました。 「七井元分館跡地」の活用につきましては、今後の参考にさせていただきます</p>
13	<p>①職員の管理と人材育成について 役場の職員と町民の間にはかなりギャップがある。いかなる良いアイデアも末端まで伝わらなければ効果が期待できないのでは。 PDCAサイクルで客観的な効果検証を実施するとあるが、重要なのは計画だけに満足せずにいかに継続実行できるかだと思ふ。 「ましこ」の未来計画を良い方向で実行するためにも、ボランティアの「ましこ」未来計画実行推進サポーター制度を立ち上げ、未来へつなぐことを提案する。</p> <p>②地域のたまり場の設置について 意見交換等の交流施設として、道の駅を大いに有効活用したい。</p>	<p>①皆様への周知方法としては、大小さまざまな説明会の開催と各世帯への本計画概要版の配布を検討しています。本計画では重要業績評価指標(KPI)を設定し、達成度合いについて毎年外部評価も実施することとしています。実行推進サポーター制度につきましては、外部評価制度の導入の際の参考にさせていただきます。 ②道の駅につきましては、内部に休憩施設や地域交流施設なども整備するものとして現在建設中であるため、有効活用できるものと考えます。</p>
14	<p>①少子化対策について 下野新聞7月14日栃木市・リクルートと連携し婚活や定住サポートの記事があり、都会に出ている若者や首都圏に住む未婚女性を対象にした市の魅力をPRする活動が出ていた。 益子も若い人が集える企画や結婚相談センター等の充実を図り、働く場所がないからという理由で都会に就職する。でも今は車社会であり多少遠くても働けるところはある。アパートも多数ある。若い人に定住してもらうアイデアを募集するとか。何より、町民の平均年齢を下げる＝子供を増やす。若い人の考えは若人の言葉で語ってもらう。マシコの未来は若い人の希望等をアンケートを取ってみることも大事だと思う。町に子供が増えることにより、5分野の問題は解決すると思う。</p> <p>②産業について 産業としては、自分が今できることを後回しにしないでお客様の立場になっておもてなしの心を忘れずにするだけだと思う。</p>	<p>①子育て支援につきましては、「毎年子ども1人あたり1万円分の子育て応援手当の支給」や「地域子育て支援施設の設置」、「結婚、妊娠・出産、子育ての切れ目ない支援を充実するため、ライフステージに応じた情報発信を行う」など、子育て世代の経済的負担や交流ができる環境、婚活サポートなどを通して、本町に住み続ける取組の強化を目標とした具体的行動を計画しました。「若い人に定住してもらうアイデア募集」につきましては、「移住者とともに移住定住計画を策定」に包含する考えます。 ②現在、おもてなしに対する事業費支援制度があるため、制度の周知等を引き続き実施していきます。</p>

## 新ましこ未来計画パブリックコメント

意見・提案内については、原則原文のまま(ただし、誤字は修正)。

なお、文体を統一するため、語尾など一部調整した箇所があります。

No.	意見・提案内容と理由	回答
15	<p>町+町民出資の太陽光発電所の設置            未来計画等で何回か出席いろいろな意見を出した。また、生涯学習等でみんなの意見を聞きながら本当に町の未来は大丈夫だろうか、皆真剣に考えているのだろうか、いくつか疑問は残った。            ①行政に頼りすぎの意見がたくさんあり、②少子化の速度があまりにも速い(子どもが減少)、③限界集落が今後各自治会で出てくるのでは、④就職が地元になく卒業後首都圏で働く若者が多い、⑤今後自治会の伝統行事が高齢化・少子化で維持が困難に直面する(地元の伝統は誰が引き継ぐのか)、⑥益子焼だけで観光客の増加が今後も永く継続可能か、⑦宇都宮大学廣瀬教授の講演のような地方分権時代・地方創生の流れ(町はこの国家政策に今後対応が必要)            そこで考えるに将来に向けた展望だが、町として何か永く残していける事業計画はないか。考えるに考えたあげく将来に対して投資を今すべき緊急課題ではないだろうか。具体的に、将来に対しての持続可能な投資で、それを町で運営する。道の駅ましこもその1つかもしれないが、今後の計画で一番重要なのは、資金が回収可能な事業である。それは町で運営可能な発電所の建設である。発電所にもいろいろあるが、ここで取り上げたいのは、再生可能なエネルギーの発電所。例を挙げれば、太陽光発電所・風力発電所など。ここで町で一番ふさわしいのは、太陽光発電所である。理由は、特に町では太陽光パネルの設置が他県と比べて少ないのでは。            現在原発の再稼働が困難な中、これからは再生可能エネルギーの時代である。一般的にはかなり普及したと思うが、ここでは益子町管理のもとでの発電所の設置・運営。太陽光発電は欠点も若干ありますが、優れた特徴がある。            ①半永久的でクリーンなエネルギー、②発電効率が規模の大小にかかわらず一定、③光があれば発電可能、④システムが単純で保守が容易            現在、町には耕作不可能・耕作しない土地・荒れた山林がたくさん存在する。それらの土地を有効活用はできないだろうか。もちろん農地法に違反する土地は除外で、これらの土地の発電所設置は町としての将来計画として進められないだろうか。資金の面は国・県からの地方創生でまかない、かつ町民一般から1口数千円の資金を応募してはいかがか。理解ある町民は必ず将来投資に賛同し助成があります。理由は各人が益子の未来の事業に融資しているのだと自覚ができます。町+町民の参加で運営する発電所が栃木県にあってもよいのではないのか。最初は回収がなかなか進まないが、将来の益子町は安定した固定費が入ってくると思う。今後の町の若い人に残していける計画の一つではないだろうか。            かなり大胆な未来計画だが、田野に1か所、益子に1か所、七井に1か所の持続可能な発電所があったら素晴らしい。町は電気を販売して町の財政を潤っていると各地方に自慢できます。電力の自由化に伴いそろそろ町としても話題にすべき未来計画だと思う。</p>	<p>回答</p> <p>再生可能エネルギーの活用につきましては、「産学官連携による木質バイオマス活用への取組」、「間伐材等の森林資源に対する、薪やペレットとしての活用の取組」、「太陽熱温水器などの自然エネルギー設備機器への補助」など、エネルギー自給率を向上を目標とした具体的行動を計画しました。            その他のご意見・ご提案につきましては、今後の参考にさせていただきます。</p>
16	<p>税制の社会実践実験特区のような試み            ある一定面積以上(例えば55坪以上とか)、また良質(高価)な材料を用いても税金は増えない。その代り、町内産材、製材業者を一定割合以上使用するという実証実験はできないものだろうか。            2世帯、3世帯住めるような大きな、長持ちする家を材料も吟味して建てたいと考えても、税負担の心配を中心に建てたら、良い材料もいらなから、結局プレカット工場からくる外材を多く使った家になったということになる。よい材料を使う必要がなければ今後さらに山林の手入れはできなくなる。町内にたくさんいた製材業者が減り、建築職人の技術の継承も難しくなる。            税金を心配して安い家、安い材料といった現在の傾向で考えるならば、大きい家、高価材による税収はあまり期待はできないのではないだろうか。            もし税金が増えないのであれば、大きめの家、長持ちする良質材(高価材)を求めたいと考えるのではないだろうか。喜んでお金を使いたくなる社会の仕組みを実証実験をと考える。20年、30年の取り組みになるが、益子に移住したいと考えるきっかけになると思う。</p>	<p>回答</p> <p>新築住宅に対する優遇措置という観点で、移住定住奨励金制度の中に含まれると考えます。</p>

## 新ましこ未来計画パブリックコメント

意見・提案内については、原則原文のまま(ただし、誤字は修正)。

なお、文体を統一するため、語尾など一部調整した箇所があります。

No.	意見・提案内容と理由	回答
17	<p>現在テレビ等で、日本で町村が消滅する等のショッキングな報道がなされ物議となりクローズアップされている昨今である。特に人口減少問題の対策は、国が率先垂範、そして市町村も当然大きな課題として取り組んで、誰もが切実に実感しているのではないか。それはすべての分野で後継者がいないという話が身近に聞こえることで容易に理解できる。</p> <p>町の推進は私自身安堵を覚えた。新ましこ未来創成は空理空論ではなく実現を願うひとりである。この問題をどう解決し前進するのか、これはすべての人が自身の問題と考えて一粒の英知を出すことが今一番大事なのではないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共有基本理念の構築・・・縦割り行政を突破して横断的に、すべての人が助け合いの精神で英知を生む</li> <li>・未来に向けた骨格づくりは有識者による懇談会立ち上げ、また各分野の意見の収集、プロジェクト発足。県、他市町村の活動状況の把握、草の根活動による情報収集(老・青年、高校・中学生に課題を与えて作文、論文等の募集によるニーズ収集)。</li> <li>・魅力あるまちづくりへ・・・観光の町益子へのPR活動推進(陶芸でものづくりを体験させて顧客を勧誘する展開を図る)。</li> <li>・農業・商工業・・・国有地、遊休地、空き店舗の有効活用を図り、若者を定住、ゼロ資金でも益子に移住支援の推進</li> <li>・個人の税金を安く、税収を増やす英知・・・こんな難しいこと、だれか挑戦して解決してくれる人いないですか。</li> <li>・町内総生産増のための策・・・シルバー人材活用による労働力確保、企業誘致の推進、他市町村との相互協力体制の推進</li> <li>・魅力ある福祉政策・・・これからの子どもたの無償教育の実現、高齢者(無免許者)の病院限定・通院送迎の構築(真岡市内へのタクシーバス、ボランティア活動支援などの有効活用を図る)</li> </ul>	<p>共有理念の構築等につきましては、本計画は全課の共通認識のもと、推進していく計画となっています。また、目標を確実に達成するため、庁内機構改革も今後検討していく考えです。また、検討委員会・ワーキンググループ・パブリックコメント・各種団体からの提言などから5つの分野にわたり多様な意見を頂戴し策定いたしました。</p> <p>「魅力ある福祉政策」につきましては、「高齢者のニーズを反映させて、デマンドタクシーの利便性の向上させます」に包含すると考えます。</p> <p>その他のご意見・ご提案につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
18	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新しい特産品、益子ならではの作物の開発 在来作物や在来品種の掘り起し。失われていけばジーンバンクの活用などを館あげる。気候や少ない労働力に見合った作物の作付。道の駅に安定供給できる作物の検討。</li> <li>②法人経営による大規模園芸団地の創設が必要 年間を通じてトマトの生産できる植物工場の設置が望まれる。やる気のある若手経営者が法人を設立して経営にあたる。</li> <li>③豊富な山林資源の活用 間伐材など利用のバイオマスエネルギーの活用。施設園芸(上記トマトやイチゴの栽培)への利用がしやすいような仕組みの構築。隣接市町との連携も必要。</li> <li>④滞在型観光資源の創設 笠間のクラインガルテンのような滞在型の農業体験施設、農業実施設の創設。高齢者が主体的の指導や運営に当たる仕組みを構築。レベルの高い農業体験のための農機具の整備や種苗の確保などを考える。</li> <li>⑤山林地の観光資源化 雨巻山や高館山を起点としてトレッキングコースやハイキングコースを整備する。所要時間別コース設定や要所毎の休憩所、東屋の設置、自然循環型トイレの設置、地域の紹介、民話の紹介、見える景色の紹介など、できればコース毎の物語設定。例:体力強化コース、2人でのんびりコース、若者ワイワイコースなど。</li> <li>⑥もっとたくさんの文化財や人材が益子町にはあると思う。役場から外へ出て地道な調査によりもっと益子らしさ、益子ならではの諸々を発見、発展させられないだろうか。</li> <li>⑦たくさんのアイデアが出ていたが、他の町で同じことが考えられことが多く、益子オリジナルがもう少し前面に出てほしい。</li> <li>⑧景観10年、風景100年、風土1000年という概念がある。100年先の町の在り方を念頭に置いた計画なり見直しも必要かと思う。</li> <li>⑨益子出身のすごい人の子孫への取材を毎月広報に載せたらいいか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①につきましては、「地域農産物の販路開拓」の中で今後検討していきます。</li> <li>②につきましては、「集落営農組織の育成・法人化の促進及び農業に参入する企業を誘致します」に包含されるものと考えます。</li> <li>③につきましては、「豊富な山林資源の活用」につきましては、具体的な行動に次のように採用しました。 「産学官連携により、木質バイオマス活用の実現に向けて取り組みます」、「里山整備による不要木や間伐材を、薪やペレットなどとして活用する体制を近隣市町と連携し確立します」 「施設園芸への利用」につきましては、今後の参考にさせていただきます。</li> <li>④につきましては、「ラーニングバケーションの充実」に包含されると考えます。</li> <li>⑤につきましては、「特性をいかした地域創生」に包含されるものと考えます。</li> <li>⑥につきましては、地域づくりの成功には、地域を愛する皆様の取組が必要と考え、「ましこ世間遺産認定制度」「ましこ検定」「地域創生コンテスト」などを取組むこととしました。</li> <li>⑦につきましては、課題は他の町と同じことはあるかもしれませんが、解決するための過程は異なると考えます。本計画では、策定から実行まで「ましこならではの」を念頭に推進していくこととしていますので、ご理解をお願いします。</li> <li>⑧につきましては、「ましこのランドスケープデザインの作成」に包含すると考えます。</li> <li>⑨につきましては、今後の参考にさせていただきます。</li> </ul>

## 新ましこ未来計画パブリックコメント

意見・提案内については、原則原文のまま(ただし、誤字は修正)。

なお、文体を統一するため、語尾など一部調整した箇所があります。

No.	意見・提案内容と理由	回答
19	<p>群馬県川場村の道の駅について、道の駅は総面積5haほどの規模で、最初は補助金から民で村営だったが、鳴かず飛ばずの時期がしばらく続き、その後現在の民間委託会社に無理やりお願いし、それが功を奏し関東有数の成績を上げるようになった。道の駅のほかにパン工房、ビール工房、ピザ工房、ミルク工房、陶芸体験、木工作体験、ミート工房、村の花工房、そしてそれらのレストラン、そばどころ、ドリンクコーナー、カフェ等が併設されており、少し離れたところに温泉、ホテルSLスキー場、ラベンダーパーク等もある。</p> <p>コンセプトは「家族で1日楽しめる道の駅」。確かにこの5ヘクタールという規模があって初めて1か所で1日楽しめる。翻って益子にも道の駅がつくれるが、2ha程度ではツアーイトルだが、このコンセプトはそのまま現在の益子にあてはめられるのではないか。「家族で1日楽しめる益子」。1か所では無理でも、本町や周辺のあちこちに川場村と似たような店や工房や施設がある。問題は、それらをいかにコーディネートできるか。お客さんに自分勝手に見繕って1日楽しんでいってほしいというのでは今までと変わらず不親切で、何十通りかの組み合わせをつくり、それに協力できる店や工房や施設をつくり、道の駅やネットで提案するところまですべきではないか。おもてなしカリキュラムで、それらを企画運営する組織を観光協会、町観光課、商工会、農協、ボランティア団体などによりいかなる形で作り上げるかを思案する必要がある。</p> <p>また、川場村は、以前より東京都世田谷区と姉妹都市関係を結び、夏休みなど世田谷の小学生の林間学校などとして交流人口を増やしている。子どものころ訪問していれば大人になっても子どもを連れてリピートするはず。益子においても「昔親に連れられて訪問したので子どもを連れてきた」というのは何度も聞いたこともある。本町では現在、北海道雄武町とイギリスセントアイブスと交流があり、それぞれきっかけと歴史がありそれなりの意味はある。しかし川場村の場合はそれらと全く異なった視点や意味がある。それは世田谷区と同じ関東平野だということと、人口が川場村に比べて圧倒的に多い街だということです。</p> <p>これから何もしなければほとんどの田舎町は人口が減り、消滅してしまうところさえ生じるといわれている。自力で人口を増やすのは雇用や財源の問題で大きな壁があるが、首都圏、特に東京都の区部はすでに圧倒的な人口を抱えている。ここと姉妹都市となり、益子がその田舎の家としてのコンセプトを確立すれば、彼らは1年のうちの何日かを益子で過ごすことになり、資金力のある者は競って別荘を建てるだろう。それには本町の魅力やPRがなければならぬ。益子スタイルが現代においてどういうもので、どのように魅力的なのかを私は理解するに至っていないが、いずれにしても魅力的にしなければ相手にされない。また、相手にとってやむを得ないと思わせるきっかけは重要。そうなれば結果的にまち人口が増えたのと同じ効果が生じ、将来を恐れる必要はなくなる。</p>	<p>新設する道の駅が魅力があふれ、人々が集う拠点となるよう、今後の参考にさせていただきます。</p>
20	<p>①社会に貢献できる人材の育成について 町や国に何とかしてもらおうという志向ではなく、自分は他人のため、社会のためにどんなことができるかを年齢に応じて考える取組。子供は親だけではなく、社会全体で育てるという考えから、シニア世代による他孫(たまご)育て支援を提案。</p> <p>②町の中心地区のインフラ整備及び魅力ある集える施設整備の手法について 町内に現存する施設をお金ではなく町民みんなで知恵を出し合い、創意工夫しながらリメイクして少ない投資でも魅力を引き出せる努力が必要。</p>	<p>①「シニア世代による他孫(たまご)育て」につきましては、具体的行動として次のように採用しました。「遊びの達人による講座を開催し、子どもたちが身近にある豊かな資源を活用して、五感をのばせるような遊び方を直接伝授します。」</p> <p>②限られた予算を有効に活用するため、「特性をいかした地域創生」の中で参考にさせていただきます。</p>
21	<p>地域資源を活かしたまちづくり それぞれの分野で熱意のこもった計画に感銘した。ただし、具体的に何をどういう順序でやるかは難しい。それぞれの地域住民に展開するとき、地域のやりたいこと、分野間の活動内容をどう調整することが大切。ダブリそうなものをどこがやるか、協働で提案するか決めて、住民に混乱を生じないように進めていただきたい。</p> <p>また、地域の特性に応じて、何から展開するか地域のリーダーと摺合せて活動のしやすい、実効の上がる取り組みを期待する。 益子の良さは日本の中でも優れた焼き物の町であること、県内一の歴史遺産を有していることと同時に、里山の自然に恵まれた町であること。これらを活かしたそれぞれの地域の特性に応じた役割を果たし、益子の地域力を世に示す活動になることを期待しています。</p>	<p>本計画は、町民の皆様と行政が協働で推進していくこととしているため、皆様への説明会の開催などを通じ、わかりやすく説明をしていきます。</p>

## 新ましこ未来計画パブリックコメント

意見・提案内については、原則原文のまま(ただし、誤字は修正)。

なお、文体を統一するため、語尾など一部調整した箇所があります。

No.	意見・提案内容と理由	回答
22	<p>議会だよりによれば「益子町基本条例について」の質問にその精神は住民と行政が一体となっているいろいろな取り組みをすることだとし、具体的には新ましこ未来計画に盛り込むと町長は答えている。</p> <p>このたび新ましこ未来計画の骨子を拝見すると「4つの視点」において、第1に「人口減少・少子化対策」を挙げているのはその通りだと思う。人がいなくなるとは町は成り立たないのだから。そして「5つの理念」において町の将来像は「幸せな共同体益子の実現」という至ってロマンチックな言葉を使っている。</p> <p>次にまち人口の現状分析、将来展望(希望)を行っており、ここで県民の希望出生率1.90を採用し、また転入転出の均衡を目指すという人口の現状維持というか、自信のなさが前面に出た表現となっている。かつての長期計画において、一度として目指すべき人口の記述がなかったのと比べると一歩前進である。そのための「目指すべき方向」としてⅠ乃至Ⅳを挙げているが、具体的戦略施策はない。そして「5つの理念」のより具体的な行動例示を挙げているが、この程度の行動で根本的に「人口減少、少子化対策」が実現するとは思えない。</p> <p>これらの計画を総括した感想は、「人口減少、少子化対策」に対して厳しい切迫感が見られない。どこの町でもある問題なので、やむを得ないかのではないかという甘えのレベルである。別に本町だけ人口増にする計画でもよいわけであるが、そんな意欲、覚悟はさらさらしない。いざとなれば二宮町のように真岡市に吸収していただければよいと考えているのかなと推測したくなる。前記の議会において「人口減少について」の質問に対して「お金のあるところにかなわなくなってしまう時代が来るかも」などと言わず、強い意志により知恵を振り絞っていただきたい。貧しく人口が増えなくても幸せだと思えばよいのではないかということなら、何おか言わんである。</p> <p>もっと真剣に具体的戦略行動を突き詰めて、今の時勢に適合し、触媒のような、将来化学反応(窯変)を起こすべき、益子ならではの施策を計画提案してほしい。かつて真岡市が内陸初の工業団地を成功させたような。期待してます。</p>	<p>中間報告会では皆様からのご意見・ご提案を数多くいただくため、検討中の具体的行動の一部のみを例示いたしました。決定した本計画では、まちの将来像「幸せな共同体・ましこ」の実現に向け、この5年間の重点的・優先的な具体的行動を明示いたしました。</p>
23	<p>暮らし 森林資源の利活用の促進、今後のことを考えると産業分野で考えたほうがいいのでは。産業の中に林業が示されていないので、環境も大切だが産業で考えた方が発展が望めるのではないか。</p> <p>気になる表記 ・産業の中の「小さな」ものづくり・・・ものづくりに小さいも大きいもないのでは。意味するところは身近かな。わかりづらい。 ・トップアスリート育成・・・いきなりトップではなく底辺を拡大していくことが必要ではないか。その中から上級者が出てくる。 ・マシコ体操・・・世の中いろいろな体操がある。ラジオ体操も。何を埋めるものなのか、今までのでは何が不足しているのか。 ・MASHIKOスタイル・・・どこで、どのように認知されているのか。町民の間でどう受け止められているのかわからない。 ・本人への評価のフィードバック・・・制度としてはわかるが、計画としてはなじまないのでは。役場内部のことであって仕事を通して常に実施すべくであろう。</p> <p>新しいものをつくらなくてもまちおこしは可能と思う。優れたものや人がたくさんある。「発見、益子で1番」みんなで周りを見て再発見しては。それが他ではなくもしかすると日本一になっているかもしれない。 例えばビルマ汁。番組でも取り上げられた。もう一度食べ物の中身と名前が一致しないので認知されにくい、いろいろなバージョンを考えればまちおこしの1つにもなるのではないか。道の駅もできることであり期待している。</p>	<p>林業は暮らしの分野より産業のほうが適切ではないかのご指摘につきまして、検討の結果、「薪やペレット等の木質バイオマスとしての活用」と整理しておりますので、そのまま暮らしの一分野としました。</p> <p>トップアスリート育成ではなく底辺拡大が必要とのご指摘につきまして、具体的行動を次のように変更し採用しました。「スポーツ少年団活動や中学校運動部活動外部指導者派遣事業の充実を図るため、専門知識を備えた人材を活用します。」「未来のトップアスリートの基礎をつくる教室や指導者育成教室を開催します。」</p> <p>マシコ体操は何を埋めるものなのかのご指摘につきまして、小・中学生の新体力テストの結果、ボール投げ・握力が弱い傾向にあるので、それを補う体操をと考えています。</p> <p>MASHIKOスタイルが町民の間でどう受け止められているかわからないとのご指摘につきまして、趣旨は「豊かな自然と風土で培われてきた益子らしい生活」であります。分かりやすい表現にすべきと多くの方からご指摘を受けましたので、検討の結果「施策3を施策2と併せて、「生活に溶け込んでいる風土や風景、風習」とすることにしました。</p> <p>みんなで周りを見て再発見・まちおこしというご意見につきましては、「ましこ世間遺産認定制度」「ましこ検定」「地域創生コンテスト」などを通して取り組むことといたしました。</p>



## 新ましこ未来計画パブリックコメント

意見・提案内については、原則原文のまま(ただし、誤字は修正)。

なお、文体を統一するため、語尾など一部調整した箇所があります。

No.	意見・提案内容と理由	回答
24	<p>5つの基本目標 4、5は、1、2、3と書き方が違うので、違和感がある。特に、「富を蓄積する」資産形成はもう少し説明を加えたほうがいいのではないか。 未来計画なのだから次の時代の人のために、今～するのではなく、今あるものを活かして次へつなげるようにあらわしたほうがいいのではないか。</p>	<p>「富を蓄積する」の表現についての違和感があるとのこと指摘につきましては、趣旨は「先人が残してくれた貴重な資産を保存継承するとともに、現在の私たちは未来に向けて新たな資産を創っていく。」ことで、検討の結果、「地域資産を蓄積する」としました。</p>
25	<p>人口ビジョン いろいろな機関で示されているように、日本の人口が減少していく中で、益子町も例外とはなりえない。 今回の人口ビジョンの中で今後目指すべき方向4つはまさにその通りと思うが、「新ましこ未来計画」の中の施策で特に2、3が具体的行動として弱いのではないだろうか。 益子町が生き残るためにより強力な効果のある施策を望みたい。</p>	<p>人口ビジョンでは2060年の人口目標を1.8万人とし、その2060年に向けてこの5年間で何を行うかが本計画となります。中間報告会では皆様からのご意見・ご提案を数多くいただくため、検討中の具体的行動の一部のみを例示いたしました。決定した本計画では、まちの将来像「幸せな共同体・ましこ」の実現に向け、この5年間の重点的・優先的な具体的行動を明示いたしました。</p>
26	<p>「新ましこ未来計画」には5つの理念(基本目標)を提示されていますが、それを各地区に協力依頼したらと思う。 例 「風土に根ざした産業をつくる」・・・益子地区 益子地区は他地区よりも商店が多く、益子の中心であるため。 「社会的に自立した人を育てる」・・・埴地区 埴は子ども会の教育が充実していると思うため。 「富を蓄積する」・・・山本・田野地区 伝統ある文化財、芸能等記録保存されていると思うため。 「健全な経営体を持続する」・・・行政 これは町財源に関することなので役場で行うべきと思うため。</p>	<p>本計画は、すべての具体的行動において対象地区というものを設定していません。住民、事業者、地域、団体、議会、行政など本町にかかわるすべてが協働やそれぞれの立場で推進していく計画としています。</p>
27	<p>益子町の「地ビール」をつくり、売り出してはどうか。 「地ビール」は地域活性の策としてよく聞かれるが、ビールはアルコールの中でも大衆的な種類である。 農業の活性化 町内で生産されている二条大麦(ビール大麦)の生産を増やす。 ビール製造で使われるホップを町内産でできるとよい。ホップの生産は、緯度35～55度の地域が多いようだ。益子町役場の緯度は36度。生産できるか。季節により、町内産果実のフレーバービールをつくる。いちごビール、梨ビール、りんごビールなど。 焼き物業を巻き込む 益子焼の瓶ビール・ピアグラスを製造、販売する。日常用や贈答用のなど用途にあった益子焼を製造する。 益子のビールをセンスの良さで売り出したい。マシコットはラベル等にのせない方向で。 道の駅での販売、町内イベント(陶器市や土祭)で販売し、益子の地ビールを広め利益を得る。他の飲食業も協力いただく(ビールに合うつまみの開発、販売)。</p>	<p>新商品の開発という観点では、「6次産業化への取組」「ブランド商品による販路拡大」に包含されると考えます。</p>